

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

里山再生と共生

これまで、野生動物と人との敵対的な緊張関係が維持され、野生動物の捕獲が行われていた里山は荒廃し人の活動がなくなり、かつての賑わいがなくなっていました。

そのため、里山はサルやシカ・イノシシがこれままでのように警戒する地域ではなく、安全に生息できる地域へと変わってしまいました。耕作を放棄した田畑は藪になって野生動物の生息に適した環境になっています。

サル・シカ・イノシシなどの増えすぎをさらに助長し、毎年200億円にも及ぶ深刻な農業被害に加え、営農意欲の減退とさらなる耕作放棄地の増大をもたらすなどの悪循環に陥っています。

江戸時代の 獣害対策

江戸時代の農業も害獣対策なくして成り立たなかったようです。

その歴史を垣間見るものとして猪鹿垣が今もお残されています。

当時のシシ垣には多くの場合「捕獲装置（追い込みや落とし穴）」が併設されておりました。

また、江戸時代から獣害対策として銃（火縄銃）はもっとも効果的な農具として用いられていました。

被害拡大の背景には、森の荒廃があると指摘されています。

人と野生動物が軋轢なく共生し自然環境の恩恵を享受するためには、人手も時間もかかると思いますが動物のエサとなる実をつける木を植えるなどして、森の再生をはかり、野生動物との長期的な共生の道を探らなければなりません。

モンキードッグ お披露目

去る11月6日「とれたて名張」において、宇陀・



名張地域鳥獣害防止広域対策協議会のモンキードッグ9頭が参加し、市民の皆さんに紹介されました。

獣害対策の一つとし

て、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会が取り組んできた、野生動物追い払い犬（モンキードッグ）の運用も順調に進展し早や3年目を迎えます。

11月7日には第3期の訓練も開始予定になっています。

大町市が猿害対策の一環として、全国で初めて試みた事業ですが、現在では全国的に広まってきています。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会のモンキードッグは、18頭と頭数が多くまた、宇陀市と名張市二つの群にまたがって運用活動しています。

これは全国的にも類をみない画期的な取り組み方だと思えます。

1頭のモンキードッグが守れる範囲には限界があります。

モンキードッグがいる地域にサルが出没しなくなっても、サルが活動エリアを移動させるだけ。

このような「イタチゴッコ」を解消するには、モンキードッグの頭数を増やすことが解決の近道だとおもいます。

サルは遊動域内でモンキードッグのいる地区は被害が減少することは、3年の運用の中でわかりました。

また、複数の犬たちで

猪肉の効能

サルは群れを徹底的に追い払う方法も、モンキードッグクラブでは模索していますが、これには各オーナーと犬たちのコミュニケーションが大事です。

飼主もそれぞれ忙しいので、なかなかそういつた機会を頻繁に持つことは難しいと思います。

これは今後の大きな課題だと思えますが、オーナーさんをお願いするしかありません。

11月の中旬から12月の下旬までは、全国的に大雪が予想されています。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。



江戸時代、猪肉は「山鯨」と称されて、薬食とされていました。

猪肉は精が強く食べるほどにからだをポカポカと暖めてくれます。その上、牛肉と比べてビタミンB1が多く、カルシウムは2倍と栄養は満点。

野生の猪肉はコレステロールの多い家畜の肉と違い豆ア（ドコサヘキサエン酸）、ロア（イコサペンタエン酸）など、高度不飽和を多く含んでいます。それらは血栓を溶かし、血液をサラサラにして、若々しさを保つのに役立ちます。野生の猪と家畜の脂肪は性質が全く違います。

老化を防止し、健康で長生きするには、良質のたんぱく質や脂肪が大事

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

遊動域と その条件

が、ジビエという言葉は日本人にはあまり馴染がないかと思えます。

狩猟による鳥獣肉をジビエといいます。

古来より狩猟民族であった西洋人の食文化です。

サルの遊動域は、その群れの個体全体が食物を得られ、厳しい気象や天敵を避けることができる場所としての条件を満たしていなければなりません。

そのような機能が無く、揃った場所ほど、サルにとってその遊動域は価値が高く、群れはそこに執着し居続けることがあります。

指南員作成のサルの移動図で、ある日突然とんでもない地区に移動することがありますが、これはより好適な環境へのサルの欲求が原動力になっています。

サルの遊動域への定着性は、その環境への執着性に基づくので、サルにいてもらいたくない場所、すなわち農地、住宅地では農作物やサルの餌になるものにサルの手が容易に届かないようにしておく必要があります。

人間とサルの間には恒常的に緊張関係が必要で、それがなくなればサルは人間の生活圏を侵犯するようになります。

田畑でサルを見かけたら、徹底的に追い払うべきです。

昔は、田畑や家屋の外には終日人やイヌがいて、サルと人間の間は緊張関係にあり、サルの進入を防いでいました。

サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。サルは雪を好みますが、人間は寒がります。

昔は、稲の収穫時期が近くなると、イノシシ被害を防ぐために火をたきながら田畑で夜通し番をするが行われていました。

人間側にはこれぐらいの勢いが必要です。

放棄作物、放任果樹の適正管理、電気柵など防護柵の設置、追い払いを継続して、サルの居心地が悪くなるよう、防除対策を徹底しなければなりません。

名張群が行動する森林の状況は、戦後の拡大造林に伴い、広い面積が針葉樹林に変わってしまいい、広葉樹が減りサルたちにとって生息環境が悪くなっていることは否めない事実です。

人間は、それを反省し森林改善に努め、野生動物との共生を模索しなければなりません。

第3期「野生動物追い払い犬」訓練始まる

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会が取り組んできた、野生動物追い払い犬（モンキードッグ）の運用も順調に進展し早、3年目を迎えています。

大町市が猿害対策の一環として、全国で初めて試みた事業ですが、現在では全国的に広まってきています。

この度、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会は、更なる獣害対策拡充のために第三期のモンキードッグ育成を計画。11月7日、室生区オー



写真II参加したオーナーと犬達

地域住民の 連携協力

サルの被害で最も困っているのは、中山間地の多くの高齢者です。

「畑の周囲を網で囲えばサルの侵入を防げる」と言っても、それを高齢者が単独で実施するのは困難です。

地域での協力無くして獣害は解決しません。野生動物問題を解決するために、もっとも重要なことは、「地域住民の連携と協力」です！。

来年も宜しく…。